

令和 7 年度の事業評価及び令和 8 年度の事業概要について

基本目標Ⅰ 誰もが楽しめる生涯スポーツの推進

推進項目

- (1) 生涯にわたり誰もが楽しめるスポーツ機会の創出
- (2) 子どものスポーツ機会の充実と体力の向上
- (3) スポーツを通じた健康増進
- (4) スポーツを通じた共生社会の実現

◆…改善の余地がある事業

施策の実施内容 (D0)

- スポーツ少年団本部では、子ども達の大会参加の機会を確保するため、各専門部会が主体となって「酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部大会」を開催した（※野球、サッカー、卓球、バレーボール、バスケットボール、剣道の 6 競技の大会。80 チーム、888 名が参加）。
- 新規団員の加入促進による団員数増加につなげるため、教育委員会主催のスポーツ能力測定会と同日同会場にて、スポーツ少年団体験会を開催（※野球、サッカー、卓球、バレーボール、バスケットボール、剣道の 6 競技を実施し、延べ 570 名の子ども達が参加）。
- 最新の測定機器（モーションキャプチャ）を用いて、子ども達一人ひとりの運動能力を測定するスポーツ能力測定会を開催（事前申込者数：288 名、参加者数：175 名）。
- 東北公益文科大学の体育系クラブ（女子バレーボール部・男女サッカー部）に所属する学生の協力を得て、市内 8 つの小学校において体育の授業の一部分で鬼ごっこを実施し、子ども達の体力の向上を図るとともにスポーツを楽しみ感じるきっかけの創出に取り組んだ。大学生が準備してきた鬼ごっこ（ケイドロ、電子レンジ鬼、色鬼、など）を実施する他、鬼ごっこ以外の時間は担任の先生の補助（アシスタントティーチャー）として授業に参加。
- スマートフォンのアプリを活用した民間主催の「ラン&ウォーク」イベントを、市民及び市内企業へ周知し実施した【4 年目】。市内ランキング上位入賞者へ市独自の特典（さつき：記念盾・スポーツ用品、オクトーバー：日帰り温浴施設無料券・健康プラザ無料利用券）を贈呈。
- ◆さつきラン&ウォークに参加した企業は 12 企業（前年度比 1 企業増）、オクトーバー・ラン&ウォーク（ウォーキングの部）に参加した人数は 135 名（前年度比 9 名減）だった。市広報や市公式 LINE、スポーツ推進委員への個別案内等で周知を図っているが、参加者数の伸びが小さい。
- スポーツ推進委員会主催（民間企業と共催）で「第 4 回酒田市モルック大会」を開催し、地域住民の「する」スポーツ機会の創出に取り組んだ。
- 令和 4 年度からの継続事業として、スポーツ推進委員会主催で、スポーツ未実施者層へのアプローチとして、酒田駅前交流拠点施設ミライニの指定管理者（(株) 図書館流通センター）と協力して、ミライニ図書館内でニュースポーツ（ボッチャ、モルック）の体験会を開催した。この取組みが評価され、令和 6 年度の「第 4 回 Sport in Life アワード」自治体部門優秀賞受賞に引き続き、令和 7 年度も、受賞後の活動報告として応募し、奨励賞を受賞した。

- 共生社会の実現に向けた取組みの一環として、障がい者スポーツへの理解を深めるためにスポーツ推進委員会で毎年行っている研究協議会において、東京 2025 デフリンピックで活躍された本市出身の 3 人のアスリートを迎え「スポーツを通して考える共生社会の実現」と題しパネルディスカッションを行った。

施策としての現状評価 (CHECK)

- 地域のスポーツ振興を担うスポーツ振興会、スポーツ推進委員会、スポーツ少年団本部、総合型地域スポーツクラブの活動を支援・推進することは、幅広い年齢層にスポーツを楽しんでもらうために有効な手段である。
- 東北公益文科大学の学生の協力を得て、小学生の体力向上を目的に実施した鬼ごっこ事業は、「大学生の本気の走りが凄かった」「クラスメイトでいつも遊んでいない人と一緒に鬼ごっこができた」という子ども達の声があり、事業目的を十分に達成できたと感じている。また、学生からも「小学生と触れ合えたことやどうしたら皆が楽しんでもくれるのか考えて実施ができた」「鬼ごっこだけでなく、アシスタントティーチャーとして授業中に距離を縮める機会がたくさんあったから良かった」と意見を頂いた。
- 年 2 回のラン&ウォークイベントへの参加をきっかけに、取り組みやすいウォーキングを推進していくことは、スポーツ実施率の向上に有効な手段であるとする。

改善の内容 (ACTION) / 令和 8 年度以降の計画 (PLAN)

- ・多くの子ども達がスポーツの楽しさを知り、日常的にスポーツに取り組む習慣を付けさせながら、健全な心身の育成を図るため、引き続きスポーツ少年団本部活動へ支援するとともに、スポーツ能力測定会を開催する事業に取り組む。
- ・子どもの体力向上と、運動やスポーツが楽しいと感じる子どもを増やすことなどを目的に、引き続き東北公益文科大学と連携して鬼ごっこ事業に取り組む（令和 8 年度は令和 7 年度同様、希望する市内小学校を対象とする。）。大学の公立化に伴い、体育系クラブの推薦入学廃止による部員数の減少などが懸念されるため、実施方法の検討が必要である。
- ・関係団体と連携してニュースポーツ（モルック等）の普及に努め、スポーツ推進委員会主催のミライニでのニュースポーツ体験会の継続開催など、スポーツ機会の確保やスポーツ活動の充実に取り組んでいく。（令和 8 年度は小学校の長期休暇中に開設される『あのもしえパーク』へ開催場所を一部振り替え実施する）
- ・ラン&ウォークの参加者数（R8.7.7 時点 607 人）を増やすために、より効果的な周知方法や、インセンティブの設け方などを工夫して実施する。

数値目標

KPI		指標値 (R11)	現状値
	成人の週 1 回以上のスポーツ実施率	60%	56%
	子ども（小学生）のスポーツ実施率	60%	48%
	スポーツ行事への参加者数	38,000 人	39,401 人

関連事業

No.	事業名	指標			事業費（千円）
		指標名	単位	R6 年度	R7 年度（決算）
				R7 年度	R8 年度（予算）
1	生涯スポーツ推進事業	スポーツ行事への参加者数	人	36,038	6,516
				39,401	7,406
（事業概要） ○市民が参加しやすいスポーツイベント（市スポーツ大会、ラン&ウォークイベント）を開催する。 ○地域スポーツのコーディネーターとしての役割を担うスポーツ推進委員の各種研修への参加を充実させる。					
2	子どものスポーツチャレンジ支援事業	子ども（小学生）のスポーツ実施率	%	48.8	5,081
				47.7	5,904
（事業概要） ○東北公益文科大学と連携し、体育の授業時間を活用して、子ども達の運動能力向上につながる鬼ごっこ事業を実施する。 ○地域で子ども達がスポーツに取り組む環境を整備するため、酒田市スポーツ少年団本部活動（各種大会、各種研修会の開催等を実施）に対し負担金を支出する。 ○市スポーツ少年団本部活動と連携した形でスポーツ・運動能力測定会を実施し、子ども達のスポーツに取り組むきっかけを創出する。 ○宝くじの収益金を財源とする助成事業として、自治総合センターと連携し「宝くじスポーツフェア ドリーム・ベースボール」を開催。次世代を担う子どもたちの野球技能向上やモチベーションアップを促し、今後の目標を持つきっかけを創出する。					